

クータ・バイディング+ICタグで 書籍の未来は大きく変わります。



**情報がプラスされた
書籍がこれからの
スタンダードに。**

書店で本を端末に近づけると、関連商品の情報が確認できたり、同ジャンルの本がどこにあるのか表示されるといった技術が実用化されようとしています。当社ではその技術をいち早く取り入れ、人と環境にやさしい書籍づくりを進めてまいります。

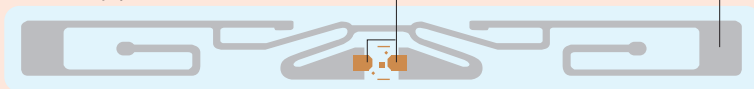
Q ICタグ とは？

ICタグは、ミリ単位のICチップと小型アンテナで成り立っています。ICチップ内に保存されているデータを、専用のリーダー/ライター（読取機）によって直接触れずに読みとることができます。現在使われているバーコードに比べて流通をより高度化するものとして注目されています。箱の中の情報を読み取るだけでなく、情報の書き換えが可能です。これにより価格等の変更があった場合でもデータを書き換える作業だけで済みます。

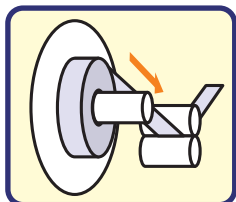
イメージ図

ICチップ(半導体)

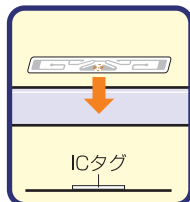
小型アンテナ



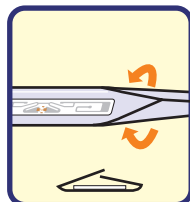
クータ・バイディング加工+ICタグ貼り込み加工 ワークフロー



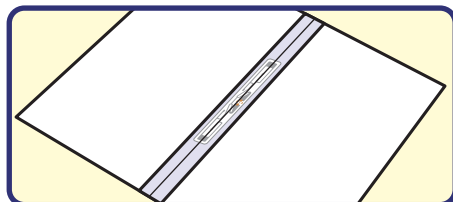
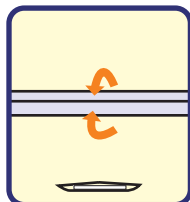
① クータ用紙をロールから送り出す



② ラベル状のICタグを、ラベルマシンでクータ用紙に貼る



③④ 袋状にして糊付けをしクータを、表紙の天地寸法にカット



⑤ これでICタグ入りのクータ表紙が完成

未来へ

for the coming
Age of Ubiquitous



ICタグ

